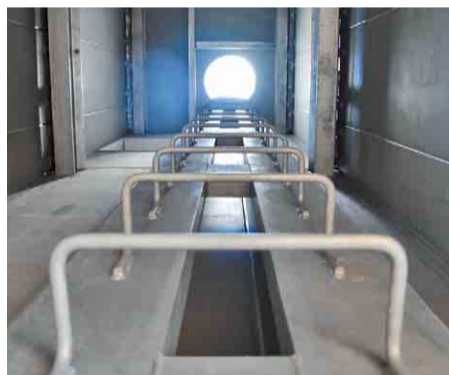


東消防署が体制を整え 4月から新川東側の



高所訓練施設のある訓練棟
◀ロープを使った登はん・降下の救助訓練や放水訓練などができます



マンホールを想定した坑道
◀垂直に掘り下げられた坑道内における救出訓練ができます



◀左から、消防隊員、救助隊員、救急隊員、防火衣を装着した消防隊員。さまざまな災害現場で活動しています

令和元年9月に完成し、運用を開始していた東消防署。4月からは、新たな人員や車両を配置することで、機能の充実を図り、新体制で本格始動します。

今後は、大規模な災害などに備えた、市民の安心安全な暮らしを守るための新川東側の消防拠点となります。

旧東消防署の機能に加えて 新たな人員と車両を配置

昭和50年に開署した旧東消防署は、築45年が経過したことから老朽化が進み、耐震性も不足していました。昨年9月阿蘇中学校北側に、地震発生後も業務が継続できる、鉄筋コンクリート造耐震耐火構造の新しい庁舎が完成。

10月には、旧東消防署員を配置し、以前から使用していた車両や備品などを移転することで、運用を始めていました。

4月からは現在の体制に加えて、新たに救助係を配置し、大規模災害や水難事故への対応強化を図ります。車両の見直しも行き、新川東側災害対応の消防拠点としての機能を充実させて、新しい体制で本格始動します。

現場の状況を想定した訓練施設

消火活動は、火災から尊い命や大切な財産を守ります。救急活動は交通事故によるけがや、急病で緊急を要する人の元へかけつけ、適切な応急処置を行いながら病院に搬送しますが、消防署の仕事はそれだけではありません。

地震・台風などの自然災害や、大規模な災害・事故での人命救助など、さまざまな状

況に対応していかなければなりません。

緊急時に、より早く確実な現場活動を行うためには、訓練やトレーニングが欠かせません。

東消防署には、災害現場を想定した、濃煙内での検索訓練、マンホール事故の救出訓練などの設備を備えています。市内では初めて、敷地内に高圧放水が可能な放水壁を設置。消火訓練、消防団のポンプ車操法訓練などが行えるようになりました。ロープ登はん、はしご登はん、降下などの救助訓練を実施する、地上高18mの訓練棟もあります。

充実した設備による日ごろの訓練は欠かせませんが、要請があった場合にはいち早く現場に向かう必要があります。簡単に装備を整えられる防火衣着装室は、出勤までの時間を短縮することができる設備になっています。

装備変更がワンタッチで可能



▲災害時、隊員が防火衣や感染防止衣に着替え、車両に乗り込みます。1台2人分収納できる回転式ロッカーになっています

広告

広告